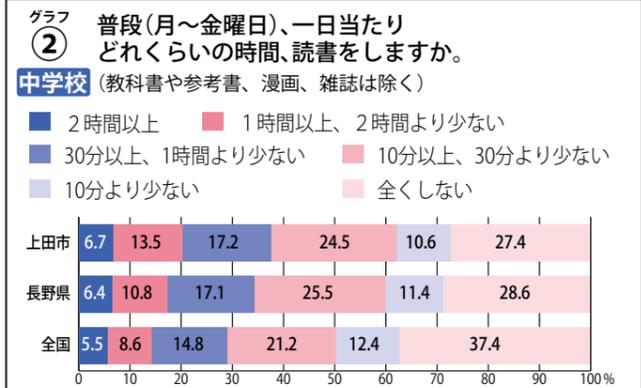
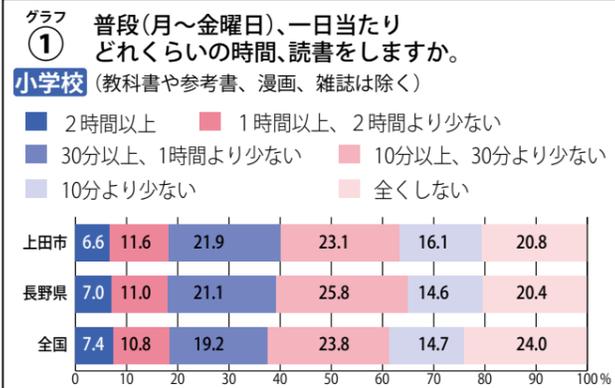


② 生活習慣や学習習慣に関する調査

小学6年生・中学3年生 共通

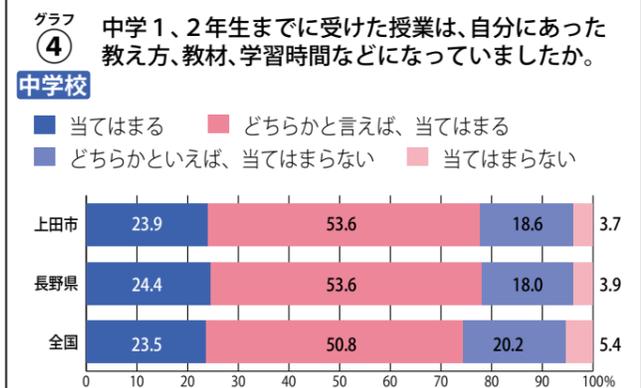
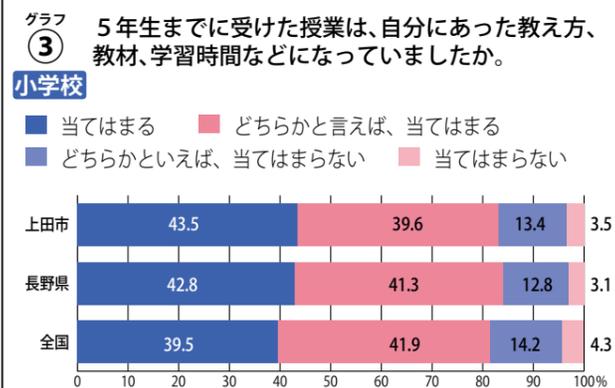
家庭読書の習慣を目指して

現状と課題	今後に向けて
家庭において一日30分以上読書をする子どもの割合は、小学生が40.1%、中学生が37.4%でともに全国値を上回っています(グラフ①、②)。一方、全く読書をしない子どもの割合は、小学生が20.8%、中学生が27.4%でともに全国値を下回っています。	読書を毎日30分以上行う子どもたちの割合が全国値に比べて高いことは良い傾向ですが、家庭で全く本を読まない子どもたちの割合が20%以上であることは課題と言えます。活字離れが叫ばれる中で、今後もメディアコントロールレーなどを設けるなど、保護者の皆様のご理解とご協力を得ながら、読書時間を増やしていきたいと考えます。



個に応じた授業を目指して

現状と課題	今後に向けて
「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合の合計は、小学生が83.1%、中学生が77.5%でともに全国値を上回っています(グラフ③、④)。多くの教室で、個に応じた授業が実践されていることがうかがえます。	学校では、すべての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現を目指し、子どもたち一人ひとりに適した授業実践に取り組んでいます。「自分にあった教え方、教材、学習時間になっていましたか」の質問項目について、多くの子どもたちが、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に捉えています。コロナ禍の限られた教育環境下であっても、子どもたちの願いや実態を大切にしながら、ICTの使用・活用を含め、個に応じた授業がさらに展開できるよう取り組んでいきたいと考えます。



※グラフの合計値は100にならない場合があります。

③ 確かな学力を育むために 変化の大きな社会を生きるための力

子どもたち一人ひとりに確かな学力の定着と、さらなる向上が図られるよう、これからも学校では、授業の改善などに継続して努めてまいります。併せて、児童・生徒がよりよい生活習慣や学習習慣を身につけることができるよう、家庭・学校・地域の連携をさらに深めていく必要があります。上田市教育委員会では、これらの調査結果を有効に活用し、今後も児童・生徒の確かな学力の育成と将来の礎となる「生きる力」を育む施策を立案・実践してまいります。



全国学力・学習状況調査 市内の児童・生徒の調査結果を公表



全国学力・学習状況調査は、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析して、指導方法の研修・改善や教育施策の改善・充実につなげることを目的としています。

今年5月に、市内の全小中学校が参加した全国学力・学習状況調査の結果について、概要をお知らせします。なお、この調査結果は、児童・生徒が身につける学力の一部であることをご承知ください。

- **対象** 小学6年生(25校)、中学3年生(11校)
- **内容** 教科に関する調査(小学生/国語・算数、中学生/国語・数学)

☎ 学校教育課 ☎23・5101

① 教科に関する調査

小学6年生

教科	現状と課題	今後に向けて
国語	○平均正答率60.9%(全国値との比較 -3.8ポイント) ○「書く」問題の正答率が全国値に比べて低く、「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約して書くこと」や、「文の中における修飾と被修飾の関係を捉えること」などに課題が見られました。	○自分の考えをまとめる活動を授業の中に位置づけ、要点的に文章を書く経験を継続して積ませるなどして、書く力を培いたいと考えます。
算数	○平均正答率67.8%(全国値との比較 -2.4ポイント) ○「直角三角形の面積を求める式と答えを書くこと」は全国値を上回りましたが、「面積の求め方を記述すること」や、「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断すること」などに課題が見られました。	○公式を覚えるだけでなく、公式の意味を理解して使いこなすことができるようにしたいと考えます。 ○身近な生活場面を題材にして、必要な情報を見いだす問題を解く経験を積み重ねていきたいと考えます。

中学3年生

教科	現状と課題	今後に向けて
国語	○平均正答率64.3%(全国値とほぼ同等) ○「国語への関心・意欲・態度」は全国値を上回りましたが、「話す・聞く」「書く」の領域はやや下回りました。 ○これまで課題であった記述式の問題について、特に条件に合わせて書く力が改善しつつあることが感じられる一方で、段落相互の関係を理解する力に課題が見られました。	○「国語の授業の内容が理解できる」、「国語の学習は将来社会に出た時に役に立つ」と考える割合が年々増加してきています。国語の学習への関心・意欲をさらに育てていきたいと考えます。 ○書くことへの抵抗感を減らすとともに、語句や文の使い方に気をつけ注意深く文章を読み取る力を伸ばすといった学習に力を入れていきたいと考えます。
数学	○平均正答率56.9%(全国値とほぼ同等) ○領域別では、「資料の活用」が全国値を上回り、その他の領域も全国値を下回る幅が小さくなってきています。 ○「記述式」の問題において改善の傾向が継続しています。 ○「グラフの特徴を基に説明する」の問題は正答率がかなり高かったですが、「ある四角形が平行四辺形であることを、条件を使って正しく筋道を立て説明する」などの問題において、基礎的理解と活用する力に課題が見られました。	○調査では、問題文が長くなったり多くの資料が提示されたりする問題が増える傾向がある中で、以前よりあらかじめ問題に取り組む良さが育ってきていると考えられます。 ○一方で、公式、数学の用語、条件などの基礎的な学習事項をしっかり定着させる学習を、今まで以上に大切にしていきたいと考えます。